

日吉・綱島エリアにおける オンデマンド実証運行について

2024/3/26
東急バス株式会社

本日の内容

1. 実証概要
2. 運賃・支払方法
3. AIオンデマンドサービス概要
4. アプリ概要
5. 将来展望

1.実証概要

背景と目的

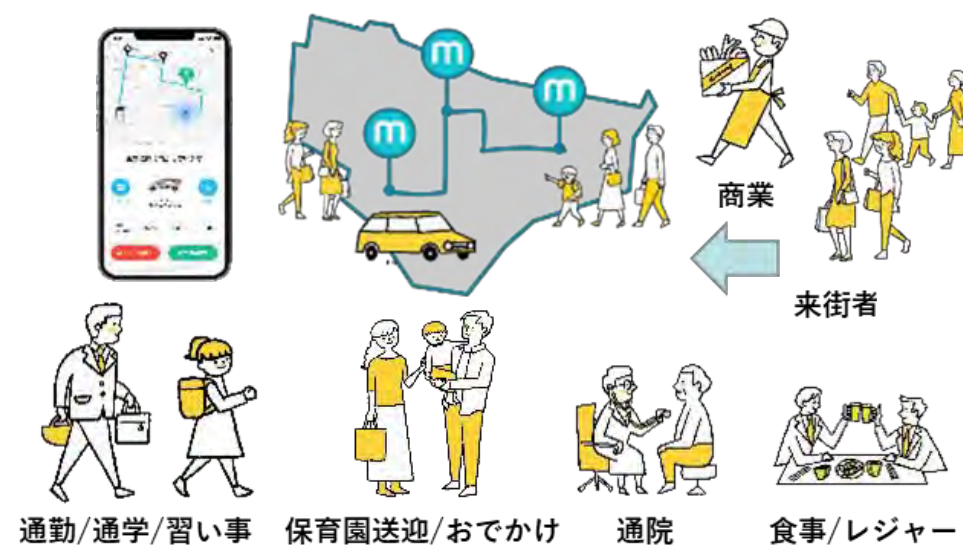
- 日吉・綱島エリアは東急東横線と東急バスが運行しており、近年新駅として新綱島駅も開業したことで、**交通の結節点としての重要性がますます向上**している。また、港北区は人口も増加しており、慶応義塾大学もキャンパスを構え、**多様性あふれる特色豊かなまち**である。
- 一方、日吉駅や綱島駅の周辺は幅員が狭い道路が多く、バスが進入できる箇所が限定されたり、地形的にも勾配が大きいエリアが存在するため、**徒歩や自転車での移動は容易ではない**。
- バス路線は充実しているものの、面でカバーし切れていない空白地域も一部存在しており、**生活圏内においてバスを補完するような新しい移動手段が必要**と考える。
- さらに本エリアは横浜市平均と比べて生産人口の比率が高く、20～30代の学生や子育て世代の比率が高いが、**マイカーを持たず自由な移動が制限されている方々への移動支援**も課題となっている。



上記背景に対して、地域のステークホルダを巻き込みながら、人々が快適で暮らしやすい交通サービスを構築し、本エリアで実現したベストプラクティスを他地域でも横展開を目指す

1.実証概要

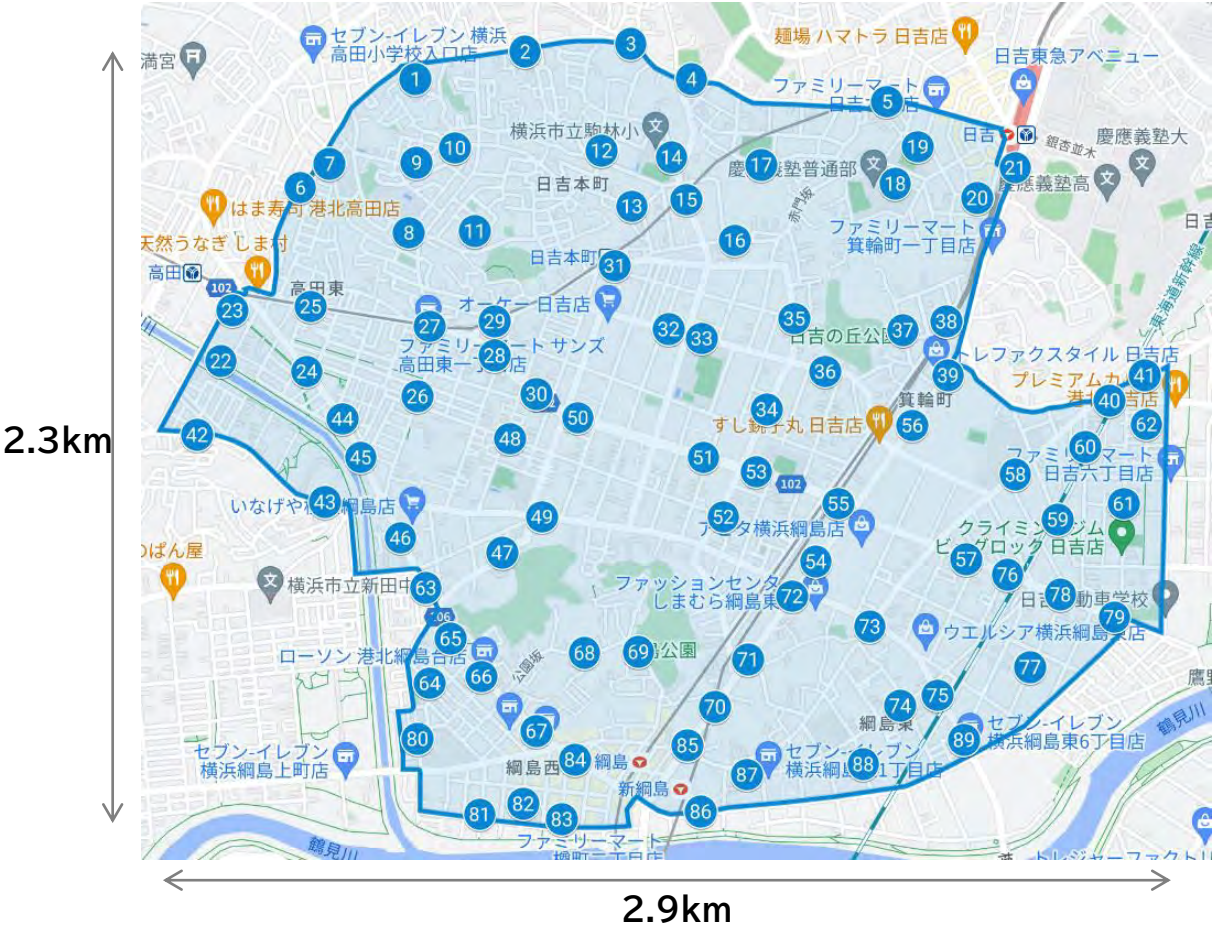
項目	内容
主な想定利用者	- 子育て世代(ベビーカーや自転車等で移動される親子) - 高齢者(買い物や公共施設への移動) - 学生(通学や習い事の移動) - 来街者(駅⇄エリア内施設の移動)
実証ポイント	- 地域における移動総量の底上げ 既存交通モードとの使い分け、オンデマンド交通利用による行動変容調査 - 事業継続性 協同する事業者における広報等による需要の喚起、相互送客による利用促進のほか、一般利用者の拡大を進めながら、法人利用者の獲得や自社運行している法人もターゲットにし、運賃収入を増加させる。また、運賃収入とあわせて非運賃収入としてラッピング広告や車内広告による収益増も図る
期待される効果	- 移動手段の選択肢が増えることで地域住民のQOL向上 - 移動総量の底上げによる地域経済の活性化



1.実証概要

項目	実施内容
運行事業者	東急バス株式会社
運行方式	道路運送法上第21条 区域運行
実証期間	令和6年6月～令和7年5月の1年間を予定
運行車両	11人乗り以上(例:ハイエスコミュタ)
運行台数	2台(常用1台、予備1台)
エリア・乗降場所	綱島駅・日吉駅 商業施設・主要ランドマーク等 既存停留所 ※右図の番号が乗降場所候補
運行時間	9:30頃～16:30頃
利用方法	アプリおよび電話予約

運行エリア



※関係各所と調整中の内容を含むため、今後内容が変更する場合があります 4

1.運行エリアにおけるバス路線



2.運賃・支払方法

■運賃設定表

運賃及び料金の種類			運賃及び料金の額
普通運賃	片道	大人	500円
		小児	大人普通旅客運賃の半額
		幼児	同伴者1名につき2名まで無料 3人目から大人普通旅客運賃の半額

■支払方法

	普通運賃
支払方法	交通系ICカード クレジットカード その他非接触決済
支払い タイミング	降車時

3.AIオンデマンドサービス全体像

- ・ 徒歩・自転車・マイカーのちょい乗りに代わる、新しい移動サービス
- ・ お客様の乗車要望に対して、AIでルーティングを実施。移動ニーズとドライバーをマッチングする仕組み

お客様

mobiアプリから予約



コールセンターに電話して予約

料金: 都度払い・定額払い
支払方法: クレジットカード・
銀行振込・現地現金払い

予約リクエスト

代表者のお名前
電話番号
メールアドレス
利用される人数
乗車場所
降車場所

AIオンデマンドシステム

提供サービスエリア

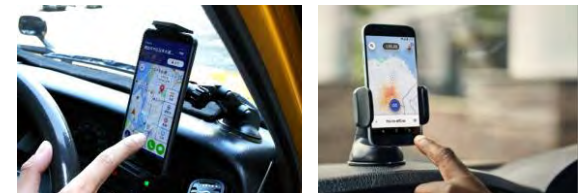


お客様の要望に応じて乗車場所を定期的に見直すことで、
地域住民の生活に寄り添ったサービスを実現

AIが予約に応じた車両ごとの最適ルートを算出

ドライバー

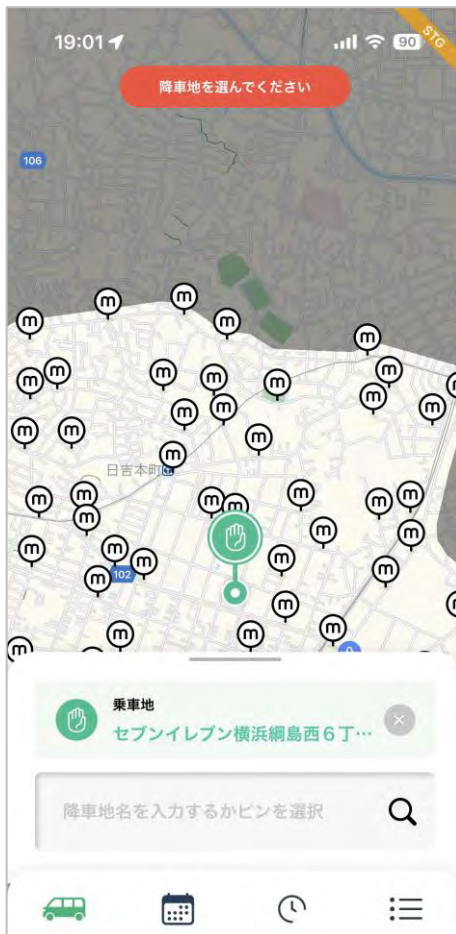
ドライバー専用アプリ



4.アプリ概要(予約完了まで)

- お客様が乗降場所を指定して予約が成立するまで、4つのStepで完結

Step1.乗降地指定



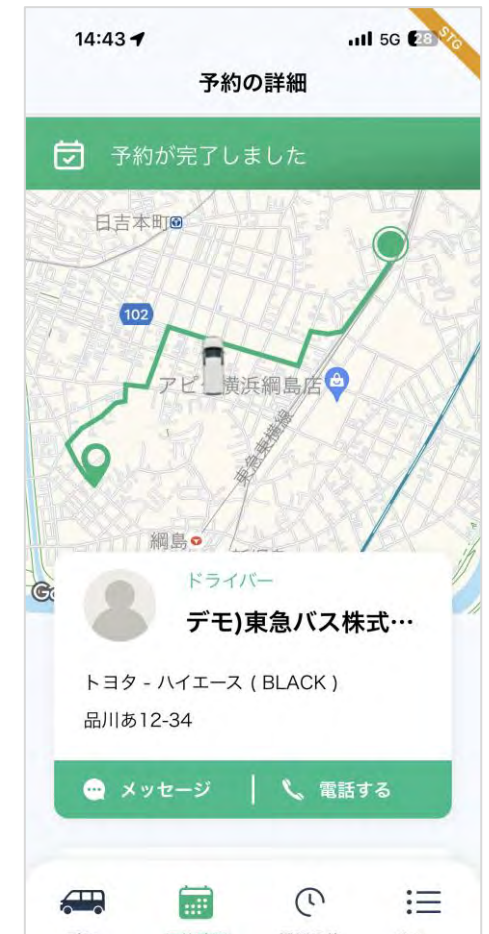
Step2.人数選択



Step3.確認画面

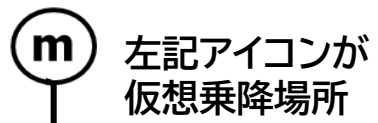


Step4.予約完了



4.アプリ全体像(乗降場所)

- アプリ内で仮想の乗降場所を設定
- 原則、目印となるような看板は設けておらず、アプリで確認する



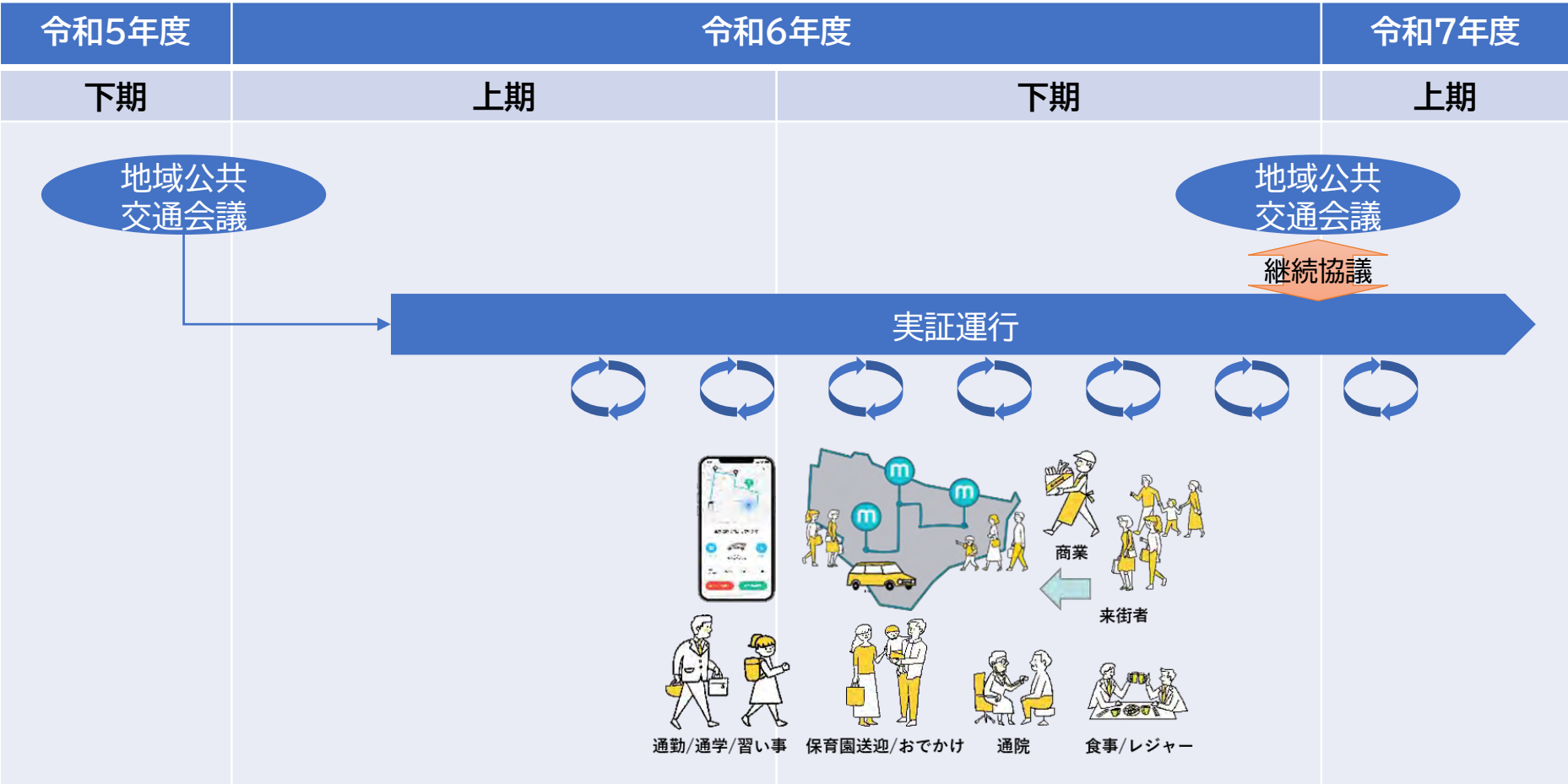
アイコンをタップし
乗降場所を指定



予約完了後ドライバーと
連絡が可能

5.将来展望

- 令和6年度に運行実証を行うなかで、パートナーとともに共創事業を実施
- 実証運行中も利用者からフィードバックをいただきつつ、サービスの最適化(乗降場所最適化、機能追加等)を図りながら翌年度以降の継続を模索し、本格運行を志向していきたい



【参考】共創モデル実証運行事業

- 本事業は、国土交通省の「令和5年度 共創モデル実証運行事業」に選定される

1. 共創モデル実証運行事業

< 特設ウェブサイトでは、第1弾(令和4年度事業)の取組み事例を紹介しています >

交通を地域のくらしと一体として捉え、地域の多様な関係者の「共創」(連携・協働)※によりその維持・活性化に取り組む実証事業

※「官民共創」、「交通事業者間共創」、「他分野共創(交通と他分野の垣根を越えた連携)」

【補助対象事業者】 交通事業者等を含む複数の共創主体で構成される協議会や連携スキーム等
(「共創プラットフォーム」)

【補助対象経費】 ・事業実施のための基礎データ収集・分析、協議会開催に要する経費等
・事業実施にあたり必要となるシステム構築、車両購入・改造に要する経費
・実証運行に要する経費

【補助率・上限額】 補助対象経費の2/3 (上限1億円)
※実証運行など、交通サービスの運行を伴う事業であることが必要です。
(次年度に実証運行を予定する事業についても対象とします。)

プロジェクトイメージ (他分野共創の例)

医療×交通

介護×交通

エネルギー×交通

住宅×交通

教育×交通

農業×交通

事業に関与 自治体・金融機関

立ち上げ支援 共創モデル実証プロジェクト

